

# 南房総・館山地域公共交通計画（2021年8月策定）概要版

～地域住民の生活を守り、地域の活性化を図る社会基盤となる持続可能な公共交通を目指して～



●こんな電車やバス、タクシーが地域内を運行しているよ！



## 1 目的

南房総市及び館山市内の公共交通は、人口減少・少子高齢化や自家用車での移動を前提としたライフスタイルへの変化等により、利用者の減少に歯止めがかからず、取り巻く状況は厳しさを増しています。また、行政が公共交通の維持・確保のために負担する路線バス補助金等の財政支出が年々増大している状況にあります。

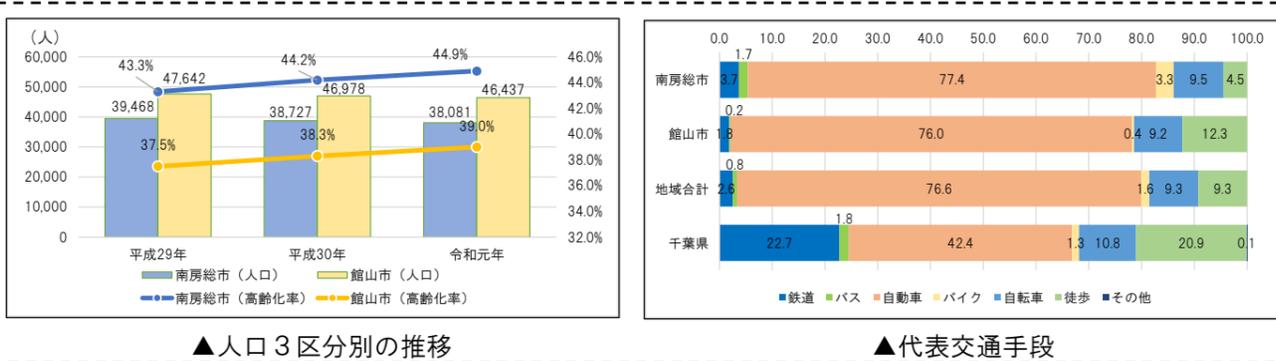
そのため南房総市及び館山市では、2市が連携し、効果的・効率的に公共交通の維持・確保に取り組むため、令和元年10月に合同の協議会を立ち上げ、利便性が高く持続可能な公共交通体系の形成を目的とする南房総・館山地域公共交通計画を策定することとしました。

本計画は、令和7年度までの5年間の計画期間とし、地域の特性やニーズを的確に捉えた公共交通ネットワークの構築に向けた取組について、目標や方向性、関係者等の役割、各種事業スケジュール等を明確にした、実効性のある計画とします。

## 2 現状と課題

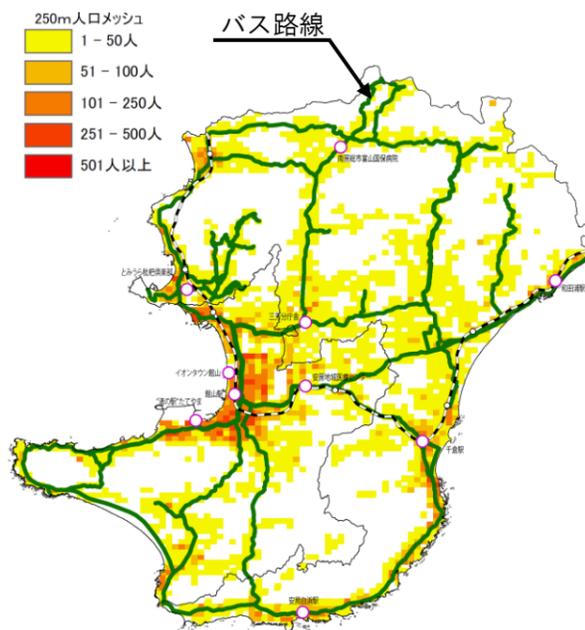
### 現状

地域の公共交通は、人口減少・少子高齢化や自家用車での移動を前提としたライフスタイルへの変化等により、利用者の減少に歯止めがかからず状況が悪化しています。



### 課題

地域公共交通の現状と各種実態調査の結果から、地域の公共交通網の課題を整理しました。

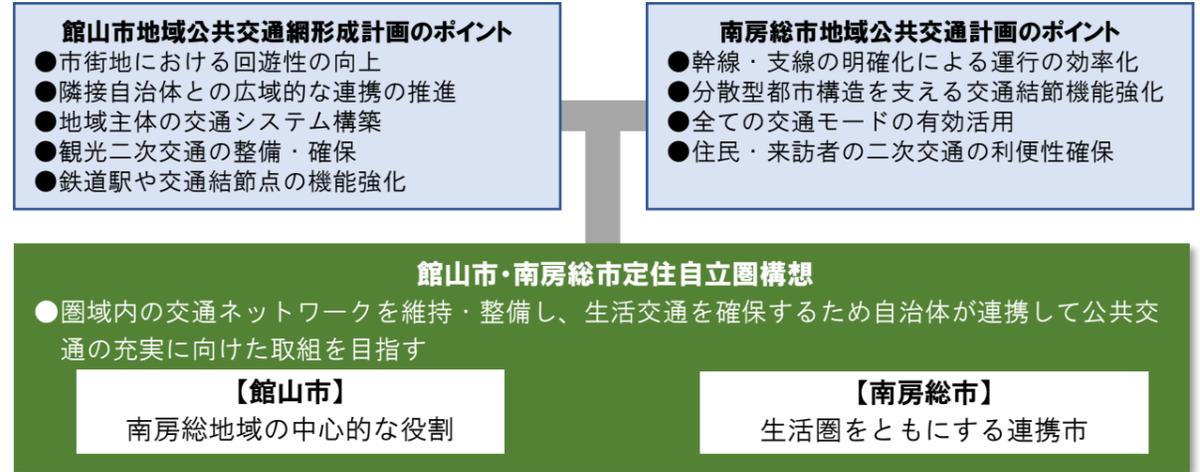


鉄道	J R内房線
高速バス	房総なのはな号 (東京駅行き) 新宿なのはな号 (バスタ新宿行き) 南総里見号 (千葉市内行き) 羽田空港・横浜線 (羽田空港・横浜駅行き)
路線バス	市内線、南房州本線、館山鴨川線、白浜千倉館山線、洲の崎線、豊房線、丸線、平群線
南房総市宮路線バス	富山線、富浦線、北三原線、丸山線
タクシー	6事業者 (42台)

- 南房総・館山地域の課題
- ①高齢者(買い物・通院)や通学利用者の移動手段の確保
  - ②過度な自家用車利用の抑制
  - ③地域特性に応じた交通サービスの提供
  - ④一次交通と二次交通の接続利便性の向上
  - ⑤観光二次交通の確保による観光需要呼び戻しへの寄与
  - ⑥公共交通全般に関する情報発信の強化

## 3 基本理念と基本方針

地域公共交通の課題に対応するため、2市の公共交通計画におけるポイントを押さえながら、計画の基本理念を設定し、理想的な公共交通サービスを提供するための基本方針を定めました。



- 南房総・館山地域の課題**
- ①高齢者(買い物・通院)や通学利用者の移動手段の確保
  - ②過度な自家用車利用の抑制
  - ③地域特性に応じた交通サービスの提供
  - ④一次交通と二次交通の接続利便性の向上
  - ⑤観光二次交通の確保による観光需要呼び戻しへの寄与
  - ⑥公共交通全般に関する情報発信の強化

## 地域住民の生活を守り、地域の活性化を図る社会基盤となる圏域一体型の公共交通ネットワークの実現

- 方針1 生活圏をともにする2市の移動需要を支える公共交通ネットワークの再構築
- 方針2 地域輸送資源を総動員した、効果的で効率的な運行の実現
- 方針3 交通結節点のサービス水準向上による、利用しやすい環境づくり
- 方針4 観光ニーズに対応した魅力のある二次交通の整備
- 方針5 地域自らがデザインした地域主体の取組による持続可能な交通システムの導入
- 方針6 公共交通をもっと利用してもらうための市民の意識改革と行動変容の推進

## 4 目標と評価指標

6つの基本方針を実現するため、達成すべき計画の目標を下記のとおり定めました。また、計画の目標に  
応じた評価指標を以下の通り設定し、目標値を設定しました。

**目標 1** 利用する人にわかりやすく、利便性の高い  
公共交通ネットワークの実現

**目標 2** 各路線の役割分担を明確にした、  
幹線・支線一体的なネットワークの形成

**目標 3** 乗継利便性の確保・向上を目指した、  
交通結節点の機能整備

**目標 4** 観光産業との連携による、圏域の活性化  
及び地域路線の維持

**目標 5** 住民、交通事業者、行政との協働による  
持続可能なまちづくり

**目標 6** より公共交通に親んでもらい、  
利用してもらうための取組展開

【評価指標】 ※地域間幹線系統においては、路線別の指標評価も行うこととする

	現状値 (2018)	目標値 (2025)
●公共交通利用者数		
・圏域内バス路線の年間利用者数	347千人	→ 現状維持
・地域間幹線系統バス路線の年間利用者数	265千人	→ 現状維持
・1日あたりの鉄道駅利用者数(有人駅)	2,955人/日	→ 現状維持
・高速バスの年間利用者数	913千人	→ 現状維持
●年間観光客数		
・道の駅等の主要観光施設の年間観光入込客数	7,101千人	→ 現状維持
●移動困難者の割合		
・市民アンケート調査における公共交通利用に困っている人の割合	11.0%	→ 5.0%未満
●運転免許証返納件数		
・運転免許証返納件数	361件	→ 700件
●交通結節点の機能強化		
・交通結節点の整備・機能強化(バス待ち環境整備等)	なし	→ 5か所
●財政負担額		
・地域内バス路線における2市の補助金	79,851千円	→ 現状維持
●収支率		
・地域間幹線系統 ※鉄道は除く	62.0%	→ 現状維持
・地域内路線 ※洲の崎線は除く	27.5%	→ 現状維持

## 5 主な実施事業

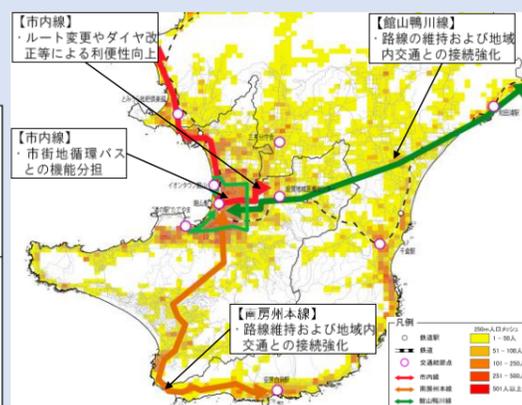
### ＜目標1・目標2＞に対応する事業

地域間幹線系統(バス路線)の維持(市内線、南房州本線、館山鴨川線)

【実施主体】バス事業者、館山市、南房総市

・圏域を放射状にネットワークする地域間幹線系統については、利用実態や市民移動ニーズ等を考慮し、見直し・維持を図る。

①市内線	○既存路線との重複区間の解消、安房地域医療センター・館山バイパス沿道施設アクセス向上等を考慮するとともに、実証運行を行った市街地循環バス導入の効果を見極めながら運行ルートの見直しを図る。
②南房州本線	○引き続き路線を確保・維持する。また、路線情報(ダイヤ・運賃・割引等)についての効果的な発信やより使いやすいダイヤ・運賃体系などについて取り組み、増収・増客を図る。
③館山鴨川線	



### 地域内路線の再編及び有効活用(丸線・平群線)

・令和2年度に実施した実証運行の結果を踏まえ、館山駅～那古地区～三芳分庁舎～安房地域医療センター～館山駅の環状系統と、三芳分庁舎以遠各地区を巡る系統に分離することも検討する。

・環状系統はアクセスできる施設等の増加、三芳分庁舎以遠の系統は地区内をこまめに巡回する等のサービス向上を図り、利用者の増加と財政支出の減少を目指す。



### ＜目標3＞に対応する事業

#### 交通結節点の機能強化

【実施主体】館山市、南房総市、バス事業者、集客施設事業者、道の駅

#### ●三芳分庁舎の整備

・廃止代替バス路線の交通結節点として三芳分庁舎(三芳地域センター)を検討し、乗換による負担感の軽減策を取り入れながら待合環境の整備等を行う。



▲三芳分庁舎

#### ●集客施設や道の駅等の整備

・域内9箇所の道の駅の中には、有事の防災拠点として、例えば停電時に非常用電源による情報発信や、帰宅困難者への物資配給等の機能を有することから、公共交通の結節点のみならず、自家用車も含めた交通結節点としての機能強化を図る。

・また、日常的な移動で利用頻度の高い商業施設や医療施設等の集客施設においても同様の機能を持たせ、バス交通の利便性向上を図る。



▲イオンタウン館山

### ＜目標5＞に対応する事業

#### フィーダー交通・補完交通の推進

【実施主体】館山市、南房総市、地元関連団体

#### ●フィーダー交通・補完交通の活用促進

・館山市街地循環バスの本格運行を実施し、館山市街地エリアの回遊性を高めることで、市街地の各施設や店舗へ便利に移動できる環境を整備する。

・南房総市営バスの運行を維持し、幹線系統と一体で地域の移動手段を確保する。

・一部の交通空白地域では、グリーンスローモビリティ等の新たな移動システム導入だけでなく、タクシー利用による移動手段の確保についても検討する。



▲グリーンスローモビリティ

#### ●多様な地域輸送資源の活用によるラストワンマイル対策

・路線バスでカバーできない地区等において、無料の医療送迎や自家用車有償運送、スクールバス混乗化など、あらゆる地域の輸送資源と連携し、近くのバス停や施設までの移動手段を整備することで、ラストワンマイル対策を推進する。

### ＜目標4＞に対応する事業

#### 観光ニーズに対応した交通体系の構築

【実施主体】館山市、南房総市、バス事業者、観光事業者等関係団体

#### ●観光産業と連携した交通体系の構築

・グリーンスローモビリティや自転車など、様々なモードを活用し、地域内をストレスなく楽しく巡れるような観光二次交通の整備を行い、スムーズな移動を確保する。



▲館山港に寄港したクルーズ船

・エリア内での回遊性向上・移動手段の確保を目的とし、地域内9つの道の駅等を結ぶ周遊バスの運行を検討する。必要に応じ実証運行を行いながら、自家用車が無くても地域の魅力を満喫できるような仕組みづくりに取り組む。

#### ●サイクルツーリズムとの連携

・B.B.BASEや「サイクルラックバス」の活用などを通じ、公共交通との連携で誰もが気軽にサイクリングを楽しめる環境整備に取り組む。



▲B.B.BASE

### ＜目標6＞に対応する事業

#### 利用しやすい・利用したいと感じてもらえる環境の整備

【実施主体】館山市、南房総市、交通事業者

#### ●ICカードの導入検討

・今後のインバウンドも含めた観光需要の回復や決済技術の進歩等を見据え、使い勝手の良いキャッシュレスシステムの導入を、官民一体となって検討していく。



▲ICカード決済

#### ●公共交通に関する情報の「見える化」推進

・時刻や運賃、利用方法などに関する利用者の不安を払拭し、より多くの人に安心して公共交通を利用してもらうため、公共交通マップの見直しや各種情報の効果的な発信、デジタルサイネージの導入を進め、「見える化」の推進を図る。



▲デジタルサイネージ



問い合わせ先 南房総・館山地域公共交通活性化協議会 事務局  
(館山市 総合政策部企画課) (南房総市 総務部企画財政課)  
Tel:0470-22-3163 Tel:0470-33-1001

